

# TARO RACE REPORT

TARO SEKIGUCHI SANMEI Team TARO PLUSONE 2024

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

## SUPERBIKE RACE in MOTEGI

2024 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第2戦

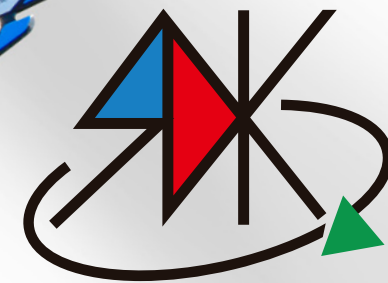


- 栃木県
- クラス / JSB1000
- モビリティリゾートもてぎ
- マシン / BMW M1000RR
- 1周 = 4.801379km
- タイヤ / BRIDGESTONE

### JSB1000 #12 関口 太郎

**RACE 1** 4月13日(土) 天候: 晴れ コース: ドライ  
**予選** 20番手 (タイム: 1分51秒113)  
**決勝** 15位

**RACE 2** 4月14日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ  
**予選** 20番手 (タイム: 1分51秒211)  
**決勝** 12位



三明電気工事



Fujimoto Electric Industry  
藤本電機工業



SANYU  
萬福



KAWAFUL TECHNO



## 満身創痍ながら両レースでポイントを獲得！

全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦が栃木県・モビリティリゾートもてぎで開催された。本来であれば、今回から本格的に攻めの走りをしていきたいところだったが、3月に行われた開幕戦鈴鹿での転倒で負傷。鈴鹿後の診断で肋骨が8箇所も折れていたことが判明していた。肋骨だけに基本的に自然治癒しかなく、身体の回復を待つのみ。そのため前週に行われた公開テストへの参加も見合わせることにした。



レースウィークは今回も木曜日の特別スポーツ走行から始まった。マシンは、昨年のベースセットから走り出し、まずは乗ることができるか身体の確認から行う。無理をせずに徐々にペースを上げ2回目の走行では1分51秒875で15番手につけていた。開幕戦鈴鹿のときよりは、遥かに身体はよくなっていたが、今回はポイントを獲得するのは難しいという状況だった。金曜日でも無理をせずに、今の身体に合ったタイヤチョイス、走り方を探っていった。

木曜、金曜と気温が上がらなかったが、土日は気温も上がり昼間は初夏を思わせる陽気となった。公式予選は、まずユーズドタイヤで出て行きマシンを確認。セッション終盤にタイムアタックに入ったが、フルでプッシュできるのは身体の状態から2周のみ。きっちり1分51秒前半にそろえ、両レースとも20番手グリッドからスタートすることになっていた。

15周で争われたレース1。慎重にスタートし、オープニングラップを22番手で終えると、5周目には18番手までポジションを上げる。単独走行となると予選を上回る1分50秒台



に入れ、前の集団に追いついていく。残り2周というところで2台を抜き、一時は14番手となるが、ダウンヒルストレートから90度コーナーへのブレーキングで1台に抜き返されてしまう。そのまま15位でチェッカーフラッグを受け、貴重な1ポイントを獲得することができた。

レース2はレース1より5周多い20周だけに身体には厳しいレースとなることが予想された。スタートすると3周目の1コーナーで多重クラッシュが発生し赤旗中断。レースは仕切り直しとなり、2度目のスタートが切られる。

レース序盤は、集団の中を16番手前後でポジションを入



れかえながら、徐々にポジションアップしていく。10周目には児玉選手をかわし12番手、15周目には佐野選手をかわして11番手に上がっていたが、最終ラップに1台にかわされ12位でゴール。満身創痍ながら2レースでポイントを積み重ねることができ上々の結果となった。

鈴鹿以来の走行になるので、どれだけ乗ることができるか分かりませんでした。痛くなりにくい走り方やセットを探し、公式予選は順位は気にせず2周だけプッシュしました。レース中もスムーズに走ることを心掛けました。レース1では単独走行のときに1分50秒436が出ましたし、ポイントを獲得とは思っていませんでした。今回は上出来でした。支えてくれたチームのみんなに感謝ですね。次戦こそ、万全の状態で行けるように準備していきます。今回も多くの応援ありがとうございました。

関口 太郎

